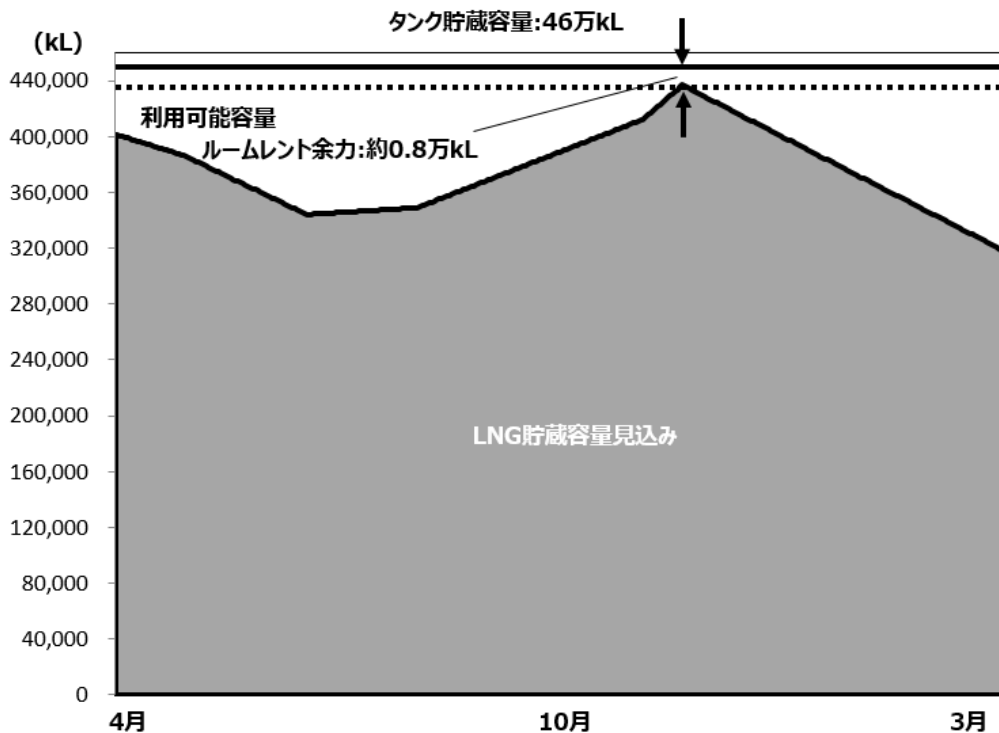


## 液化ガス貯蔵設備の容量等

以下は、ガス事業法第90条第1項及び同法施行規則第142条に基づき、当社相馬 LNG 基地に関する液化(天然)ガス(以下「LNG」という)貯蔵設備の容量等を公表するものです。

### 1. LNG 貯蔵設備における LNG 貯蔵余力の見通し



当社相馬 LNG 基地では、以下の受入となる見込みです。

- ルームレント方式の場合：0.8 万 kL(容量ベース)
- ルームシェア方式の場合：13.2 万 kL(受入量ベース)

なお、上記は以下に示す条件での場合であり、それ以外の条件においても、ご利用が可能な場合がございます。詳細につきましては、当社窓口まで別途お問い合わせください。

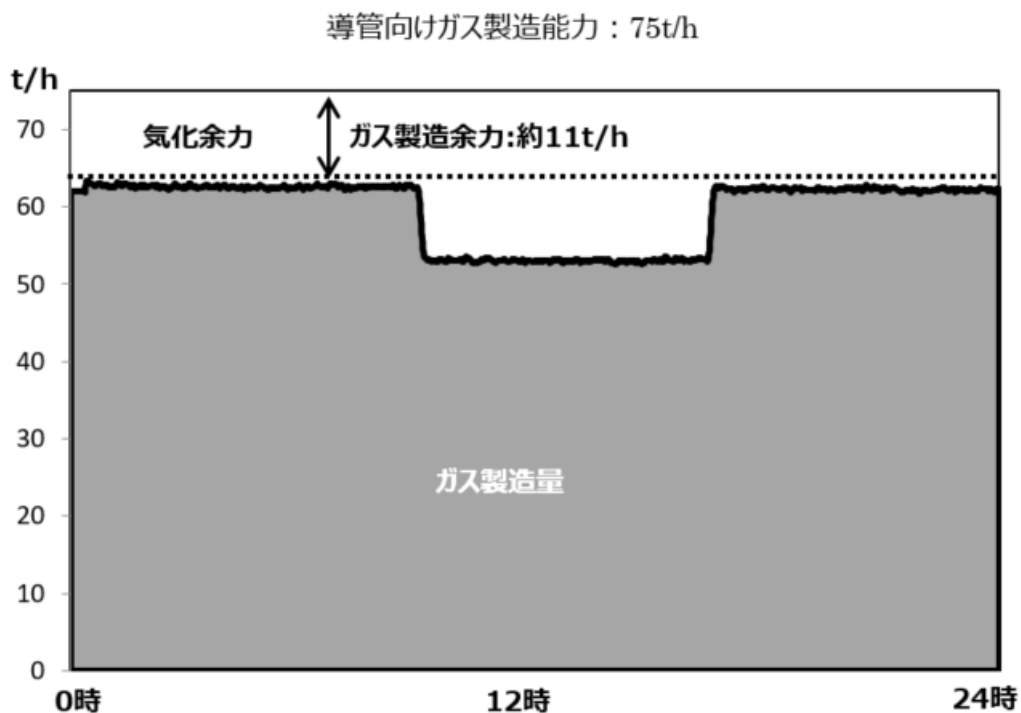
#### 利用可能容量・受入量の算定条件

- 基地利用希望者の利用可能容量・受入量は、LNG の受入状況、ガスの需要動向、定期点検工事、設備工事等によって大きく変動いたします。
- ルームシェア方式における受入量は、13.2 万 kL/隻(発熱量 43.0MJ/Nm<sup>3</sup>)の LNG 船を年間 1 隻受入れるものとし、年度終了時に LNG 在庫が 0 となるように、年間一定の割合で払い出した場合の結果となります。
- 高在庫が見込まれる期間は、当社から LNG 貸出を行い、高在庫期間後に LNG を基地に受入れ、返却いただいた場合の結果となります。

## 2. ガス発生設備におけるガス製造余力の見通し

相馬 LNG 基地が保有する LNG 気化器

- SMV 式 : 75t/h×1 基(導管向け)



- 注1) 上記 LNG 気化器の他、バックアップ用気化器として SMV 式気化器を 1 基(福島ガス発電株式会社の福島天然ガス発電所向けと兼用)と、福島天然ガス発電所向け専用の IFV 式気化器 2 基を維持・運用しております。
- 注2) 上図は当社相馬 LNG 基地が最もガスを生産した日における LNG 気化余力(日量)をイメージで示したものです。実際の気化余力は、LNG の供給変動、ガスの需要動向、定期点検工事、設備工事等によって大きく変動いたします。
- 注3) ガスの送出においては、43.5~45MJ/m<sup>3</sup>N 程度の範囲内に発熱量を調整する必要があります。

### 3. 利用することができる船舶の種類及び船型並びに LNG の種類及び品質

#### (1) 利用することができる船舶の種類及び船型(最大要目)現行設備

船型	タンク容量(m3)
モス	177,000
メンブレン	210,000
連続型タンクカバー(さやえんどう)	155,000
連続型タンクカバー(さやりんご)	180,000

#### (2) 受入可能と見込まれる LNG の種類及び品質

組成	メタン 90～96 モル%
発熱量	42 ～ 44 MJ/m <sup>3</sup> N
液密度	433 ～ 460kg/m <sup>3</sup>
その他	固形またはその他の不純物及び異物を含まないこと。

注 4) 上記の受入可能な LNG の品質は目安であり、個別の利用条件やタンク運用実態により、上記の範囲内であっても基地利用を承諾できない場合があります。

#### 4. 配船計画の策定期の見通し

各年度の配船計画の策定スケジュールは概ね以下のとおりです。

- ・前年度 7 月頃 ……LNG 売主との間で配船協議を開始
- ・前年度 12 月～3 月頃 ……LNG 売主との間で年間配船計画を調整・策定

注 5) 上記はおおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは LNG プロジェクトによって異なります。

以上